

子どもたちの意欲を高める評価方法の工夫 ～自己の学習の変容が自覚できる評価方法の実践を通して～

I. 主題設定の理由

昨年度研究し始めた「一枚ポートフォリオ評価」は教育的効果があることがわかった。しかし、まだ研究実践が緒についたばかりなので、本年度も昨年に引き続き、同じテーマでさらに深めて研究していきたいと考える。そして、本年度は、「心に元気を育む道德教育推進事業」の指定を受けているので、内容は道德に絞って研究していくこととする。道德は評価しにくいとも言われているが、児童の道德的心情の変容は、児童の自己評価により見えやすいものである。「一枚ポートフォリオ評価」により、児童は自己の変容を見つめることにより、自己効力感や道德的心情は高まり、それがやがて道德的実践力に繋がっていくと考えられる。したがって本年度は、「心に元気を育む道德教育」の実践を、一枚ポートフォリオ評価を活用しながら行っていきたいと考え、このテーマを設定した。

II. 研究の具体的な内容と方法について

1 研究仮説

学習指導において、学習前・中・後の学びの変容を学習履歴として捉え、可視的にかつ具体的内容を通してその全体を自己評価することにより、児童は学習の意味を見出し、意欲を高め、確かな学力が図られるであろう。

2 研究の具体的な内容

- (1) 一枚ポートフォリオについての学習会
- (2) 一枚ポートフォリオ評価を生かした道德指導の実践及び授業研究
- (3) 道德教育についての学習会
- (4) 道德教育全体計画・年間指導計画の見直し
- (5) 特別支援教育についての学習会

3 研究の具体的な方法

- (1) 指導（支援）と評価の一体化・指導過程における評価について講師を招き学習会を行う。
- (2) 昨年に引き続き評価方法として「一枚ポートフォリオ評価」を活用し、道德授業を全員が公開をする。
- (3) 「心に元気を育む道德教育」について講師を招き学習会を行う。
- (4) 道德教育全体計画と年間指導計画について、実践を積みながら付加修正していく。
- (5) 今後の特別支援教育にあり方について講師を招き学習会を行う。

III. 研究実践

1 学習会

- (1) 「心に元気をはぐくむ道德教育」

講師 峡東教育事務所 指導主事 泉 久功先生

(2)「特別支援教育の動向と軽度発達障害の理解と支援」

講師 新しい学校づくり推進室 特別支援担当指導主事 土肥 満先生

2 道徳検証授業

1. 1年 『あいさつはこころのリボン』	授業者	小幡 香織
2. 2年1組 『しんせつの花をさかせよう』	授業者	逸村千登勢
3. 2年2組 『かけがえのないのち、いのちのつながり』	授業者	掛本けさ穂
4. 3年1組 『せいっぱい生きる人』	授業者	雨宮 芳子
5. 3年2組 『いっしょうけんめい生きる』	授業者	篠原 貴之
6. 4年 『夢をかなえるカ〜ドリームマップをつくろう』	授業者	志村美貴緒
7. 5年1組 『夢の実現に向けて』	授業者	渡邊 尚英
8. 5年2組 『誠実な心で』	授業者	宮沢 弘美
9. 6年1組 『夢にとどくまでのステップがある』	授業者	飯島 裕明
10. 6年2組 『あなたの立場とわたしの気持ち』	授業者	武井 美香

IV. 成果と課題

1 成果

- ・道徳の授業公開を全員が行い、保護者、地域、教育関係者等に発信できたことがなんとも大きな成果であると考えている。
- ・授業参観に道徳を行うことが、お互いの教育観を理解し合うのに必要かつ有効であることが分かった。授業公開後のアンケートを見ても、保護者が授業に対してとても好感を持ち、高い関心を示してくれていることがわかった。いじめや自殺など、命に関わる大きな問題がある社会の中、子どもたちが健全に成長していくために道徳教育の必要性を強く感じており、学校への期待の大きさも感じられた。
- ・一枚ポートフォリオの取り組みを通して、指導と評価の一体化が図られた。道徳の授業でも生かせることが大きな成果であった。今まで単発的にワークシートなどを作成したが、ポートフォリオを使うことで、学びの変容を児童も教師も見ることができた。子どもたちが自分の学習したものを「学びのあしあと」としてみることができるようになった。書くということ、子どもは自分を考えることができるようになった。書くということは改めて大切だということがわかった。
- ・道徳に対する取り組みが積極的になされ、全員が授業をし、校内研で実践発表をすることで、お互いの学び合いになった。
- ・道徳の全体計画と年間指導計画を見直し修正できたことが良かった。
- ・道徳も授業は1時間ごとに行うことが多かったが、何時間か継続して行うことも可能だとわかり、道徳教育の広がりをつかむことが出来た。
- ・道徳授業と道徳講演会を組み合わせることによって、より効果が上がった。様々な分野の外部講師の話は、子どもたちの心にストレートに伝わったと感じられた。

2 課題

- ・国語力とも関係してくるが、OPPAの記述をしっかりとものにしていきたい。
- ・1時間1時間、そして日々の積み重ねがとても大切であると思う。
- ・学校教育には家庭との連携が必要であるが、特に道徳教育の場合、連携し合い理解し合いながら進めていくことの大切さを痛切に感じた。

(研究主任 志村美貴緒)